

ナターレ・コンティ『神話の手引き（寓話解釈の10巻の書）1』

について・・・フランス17世紀絵画史研究の視点から

木村三郎
日本大学芸術学部教授

I。コンティの生涯

この神話手引き書の著者の名前は紛らわしい。いくつもの表記が認められるからである。本デジタル・アーカイヴで公開した、タイトル・ページには、ラテン語表記で *Natalis Comitis*, とされている(*Natalis Comes* の場合もある)。イタリア語では、*Natale Conti*、フランス語では17世紀末の仏語辞典²で *Noel le Comte* と表記されている。また、*Noël Conti* とされているものもある。

その生涯については、1520年頃、ミラノ生まれ、ヴェネツィアで数年間研究をしてから、故郷に戻って、法律家パニガーローラの家に入り、その息子の家庭教師として仕えたとされる程度のことしか知られていない³。没年は1582年。20世紀に書かれた百科事典でも、認知し得るものといえば、1949年刊行の、イタリア百科事典の中の項目の、わずかな情報程度である⁴。C・リーバが、20世紀になって、図像解釈学の深化の過程で、再評価が進み、現代では、復刻版の刊行を含めて、欠くべからざるものとなっているのと比べると、ずいぶんの違いがある。

II。コンティの著作

しかしながら、フランスとイタリアで制作した、17世紀の画家プッサンとその周辺の神話図像論では、この図書はしばしば指摘され、参照せざるを得ない代物である。筆者のよ

¹ 本書の邦訳については、『神話図像集』、『神話』とされる場合もある。また、本デジタル・アーカイヴでは、この図書の図版部分だけを公開した。

² FURETIERE(A.), *Dictionnaire universel*, 1690, A. & R. Reinier, II; この辞典が刊行された時代のフランスでは、「古代神話」といえば、すなわち、コンティのこの著作を連想するものであった。SEZNEC, (1939)1972 p.308, note.69

³ SEZNEC, (1939)1977 p.244

⁴ CE.(B.), 《CONTI, Natale》, *Enciclopedia Italiana*, 1949 Istit. Enciclopedia Italiana, XI, p.234; 著作については、下記の、フランス国立図書館収蔵目録には記述はあるが、19世紀に刊行された最大の書誌である BRUNET, *Manuel*, (1860-78) や、GRAESSE, *Trésor* (1859-69) には記述がない。

うにヴァールブルク学派の影響下で西洋美術史を学ぶ学徒にとっては、若い時代から読まねばならないという脅迫観念がつきまとう書物であった。フランスとの関係では、図に示した 1627 年の仏訳版のテキストを参照することが、最も歴史主義的な研究上の整合性が高く、挑戦はするのであるが、されど、開く度に解説は容易ではないのである。

そうした暗い心情を持って、本稿を書くに際して、改めて、先行研究を洗い直してみた。そして、ゴンブリッチ著の論考(1944)を、コンティのオリジナル本を念頭に置きつつ、その引用箇所を、じっくり読み返して見て、初めて得心がゆく説明に出会うこととなった。

先ず、下記にあるセズネック(1939)による紹介が相対的に詳しい。この神話図像研究の先達によると、16 世紀における神話学と題された章の中で、彼は、1548 年から 1567 年の間に、その規模からもその成功からも、次の三点のイタリア語で書かれた古代神話の手引き書が刊行されたことを述べている⁵。

ジラルディ(L.G.Girardi)著『異教の神々の歴史』(バーゼル、オポリヌス、1548 年)

カルターリ(V.Cartari)著『西欧古代神話図像大鑑⁶』(ヴェネツィア、ナルコリーニ、1556 年)

コンティ著『神話の手引き(寓話解釈の 10 巻の書)』(ヴェネツィア、アルドゥス、1567 年)

コンティのこの『神話の手引き』は、中世という時間を経過した古典哲学の教義の一部を伝えたものである。コンティにとって、古い神話というものは、手ほどきをしてもらった者たちには、自然史と倫理哲学の象徴的で寓意的な奥義を教えてくれるものであった。一方で、古典や偽古典の物語のうちで最も典拠がいかかわしく、最も奇怪だともいえるこの翻案は、究極の奥義が極まった知識として開陳されており、注釈が施されている⁸。フランス近代美術史研究者にとっては、手強くて当然の内容なのである⁹。

ところで、本デジタル・アーカイブで公開された、1616 年版でわかるように、手引き書には木版による挿絵が入っている。秀抜な版刻技術を見せる版画ではない。出版業者 Tozzium が委嘱した版画家の技術が、当代では一流を誇っていたフランドルの、複雑なハッチングを多用した先端技術には遠く及んでいなかった。しかし、画家にとって、神話画の制作を依頼された場合、テキストではなく、先ず、着想をそうした版画から得ることは言うまでもない。以下に論じるように、この版画の意味は、文化の移植という意味では甚

⁵ SEZNEC, (1939)1972 ,p.229-230

⁶ 邦訳が最近刊行されている。カルターリ(V.)『西欧古代神話図像大鑑(全訳・古人たちの神々の姿について)』2012,八坂書房,大橋喜之訳

⁷ 1551 年とされる場合が多いが、以下の文献で修正されている。GARNER(B.C.),《Francis Bacon, Natalis Comes and the Mythological Tradition》,JWCI, 1970, 33, p. 264-291,特に p.264,note 3;ALLEN,1970,p.227,note 86

⁸ GOMBRICH, (1944) 1991,遠山訳を参考にした、p.245

⁹ 伊、仏、独での刊行では、1551 年以降 1669 年までに 27 版を数えるとされる(下記の、『D.S.Brewer 旧蔵神話学コレクション展・解題目録』菅野、2009)。

大であった。

Ⅲ. コンティ著『神話の手引き』がフランスへもたらした影響

フランシス・イエイツが書いた、『十六世紀フランスのアカデミー』(1947)は、大変な労作である。筆者は、随分以前に、ヴァールブルク研究所の開架の図書館の中で、この著者の署名が入り、研究所に寄贈されたコンティの羊皮紙で装丁された版を手にしたことがある。戦前から戦中の時期に、膨大な努力を傾注しながら、書き上げたこの著書を執筆する過程で、常に著者イエイツの傍らにあったであろう、その版に触れたことは感動的であった。その思いもあって、かつて、放送大学で客員教授として、この図書館の内部を撮影し放映した際に、その図書を手にした筆者の姿を記憶されている方もおられるかも知れない。

私事はさておき、セズネックとイエイツの分析によると、コンティの著作は、フランスにもたらされ、流行を生んだ。たとえば、ロンサールの詩に使われ、バレー・コミックに影響を与えたことが、1581年の事例を根拠に、詳しく論証されている¹⁰。カトリーヌ・メディシスとアンリ 3 世の治世において、フォンテーヌブロー宮における祝祭という総合芸術的な環境において、その寓意内容の影響は甚大であった。

それは、16世紀後半に、そうした古代神話の図書がフランス語に翻訳される。1557年には、ウィディウス『変身物語』の仏訳例が認められる。関心のあり方に大きな変化が生じているのである¹¹。その後、ド・ヴィジュネール B. DE VIGENERE(1523 – 1596)を中心とした、フランス語への翻訳文化の時代のうねりがある¹²。コンティの同書の仏訳は、遅くとも1604年に、ド・モンヤール J. DE MONTLYARD が行い、リヨンの出版業者フルロン P. Frelon から刊行されている(フランス国立図書館が収蔵)¹³。一方で、カルターリの『西欧古代神話図像大鑑』の仏訳が、1610年¹⁴である。

¹⁰ SEZNEC,(1939)1972,p.273,邦訳 1977,p.231,424;YATES,(1947)1996,11 章

¹¹ 1619年には、改訳され、重要な挿絵が生まれる。拙論「ルネサンスからバロックにかけて描かれた《アポロとダフネ》の図像展開について……ルーベンスとブッサンの周辺」『日本大学芸術学部紀要』2008年、48号、p.55-72,特に p.63

<http://www.kite.ne.jp/pre/saburo-kimura/pdf/2008a.pdf>

¹² ピロストラトスの次の仏訳が、1597年には、改訳されている。

PHILOSTRATE,LES//IMAGES OV//TABLAVS DE//PLATTE
EINTVRE//DE//PHILOSTRATE//Lemmen Sophiste Grec//Mis en Francois Par//BLAISE
DE VIGE=//NERE BOVRS//Auec des Arguments et//Annotations sur
chacun//deceux.Edition nouvelle reueue corrige//et augmentee de beaucoup//par le
translateur//A//PARIS//Pour//ABEL LANGELIER//Au premier Pillier de la //Grand salle
du//Palais/* ;GALLICA

¹³ 下記、CGBN,1907 XXXI,p.875,

¹⁴

http://books.google.co.jp/books/about/Les_images_des_dieux_des_anciens_contena.html?id=Vi7K1mrf8IYC&redir_esc=y

およそ、20年近く経って、翻訳のあり方に変化が生じる。編集のありかたと、挿絵にランドルの一級の版刻技術が投入されるからである。1637年に、リーパの『イコノロギア』の翻案フランス語版が、同じ監修者ボードワンの手によって刊行される¹⁵。こちらは、挿絵入りの、ABC順に整理された寓意像事典であって使いやすい。アカデミーの画家たちにとっては、これらを揃えて、アトリエに設置していたのであろう。この時代、いかに、フランスで、イタリアで生まれたこうした手引き書類への愛好があったかが理解できる。いずれにせよ、ここに認められる版画の人物像をヒントに、タブローにするには、様々な素描と油彩技術、解剖学、人体比例の教養と経験を投入し、アカデミーの入会審査や、サロンでの評価に耐える作品を制作したのである。

ちなみに、フランスで、項目が整理されて明晰な、美術史学徒にも読み解ける「神話事典」と呼べるものが刊行されるのは、18世紀初頭まで待たなければならない。ションプレの事典である¹⁶。

ナターレ・コンティに関する文献

凡例

* : 日本大学芸術学部・江古田図書館蔵

AB: *The Art Bulletin*

BM: *The Burlington Magazine*

CGBN: *Catalogue général des livres imprimés de la Bibliothèque nationale, Auteurs, Imprimerie nationale, 1897-1981, 232 vol.* (フランス国立図書館収蔵図書目録)

GALLICA: <http://gallica.bnf.fr/>

JWCI: *Journal of the Warburg and Courtauld Institutes*

UP: University Press

I。書誌

1907 CGBN, XXXI, p.874-876

2009 松田隆美、高宮利行、菅野磨美他『D.S.Brewer 旧蔵神話学コレクション展・解題

¹⁵ RIPA(C.), *Iconologie*, 1637, J. Baudoin, Paris, J. Villery, 本書は未確認であるが、J. de Bieが下絵素描と版刻を担当したことが記述されている (CGBN)。

¹⁶

CHOMPRES(P.), *Dictionnaire abrégé de la fable*, 1727 ; 1775年版は GALLICA
STAROBINSKI(J.), 《Fable et mythologie, aux XVIIe et XVIIIe siècles, dans la littérature et la réflexion théorique》, *Dictionnaire des mythologies et des religions*, 1981, sous la direction de BONNEFOY(Y.), Flammarion, p.390-400,

目録』慶応大学三田メディア・センター

http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/download.php?file_id=40420

II. 文献案内

COMES (Natalis)

http://en.wikipedia.org/wiki/Natalis_Comes

豊富な文献情報を含む出色の案内

III. テキスト・・・16-17世紀におけるイタリア語、フランス語の若干の版と近年の英訳を紹介する。

1567

COMITIS(Natalis),

MYTHOLOGIAE//SIVE EXPLICATIONVM FABVLARVM//LIBRI DECEM ,//[...] VENETIS//MDLXVII.; 復刻版 1976.Graland, Coll. The Renaissance and the Gods ,Introduction by ORGEL(S.)

1616

COMITIS(Natalis),

*MYTHOLOGIAE//SIVE EXPLICATIONIS FABVLARVM//LIBRI DECEM,/[...]M. Antonij Tritonij Vtinenfis//[...]PATAVII,apud Petrumoaulum Tozzium,/[...]Ex typographeis Laurentij Pasquat** (本デジタル・アーカイヴはこの版である); 復刻版 1979、Garland,Coll.The Philosophy of Images,edited with Introductory Notes by ORGEL(S.)
参考・菅野磨美・既出『「D.S.Brewer 旧蔵神話学コレクション」解題目録』

1627

COMES(Natalis),

MYTHOLODIE,/[...]OV//EXPLICATION//DES FABLES,/[...]OEVVRE DEMINTNTE// Doctrine, & d'agreable Lecteure./[...]CY DEVANT TRAADVITTE//PAR I.DE MONTLYARD.// EXACTEMENT REVEVE EN CETTEDERNIERE//PARIS,/[...]Chez P.Chevalier[...]; 復刻版 1976,Garland,2 vol.Coll. The Renaissance and the Gods, no. 26*,
CHARLES,SIRE DE CREQVY ;ET DE CANAPLE への献辞がある。

2006

Natale Conti's *Mythologiae*, 2 vol., translated and annotated by MULRYAN(J.) and BROWN(S.), Coll. Medieval & Renaissance Texts & Studies, no.316, ACMRS, Tempe

 <p>NATALIS COMITIS MYTHOLOGIAE, SIVE EXPLICATIONVM FABVLARVM LIBRI DECEM. IN QVIBVS OMNIA PROPE Naturalis & Moralis philosophiæ dogmata sub anti- quorum fabulis contenta fuisse Demonstratur. CVM LOCVPLETISSIMIS INDICIBVS eorum scriptorum, qui in his libris citantur, rerumque notabilium, & multorum nominum ad fabulas pertinentium explicationibus. OPVS NON TANTVM HVMANARVM, sed etiam sacrarum literarum & Philosophiæ Theosofia perutile, ac propè necessarium. CVM PRIVILEGIO. VENETIIS M D L X V I I.</p>	 <p>MYTHOLOGIE, O V EXPLICATION DES FABLES. OE VVRE DE MINFNT E Doctrine, & d'agreceble Lecture. CY DEVANT TRADVITTE PAR I. DE MONTLYARD. EXACTEMENT REVEVE EN CETTE DERNIERE Edition, & augmentée d'un Traicté des Mafes; De plusieurs remarques fort curieuses; De divers Moralitez touchant Dieux; Et d'un A. l. regé de leur Image, Par I. BAUDOIN. A PARIS, Chez PIERRE CHEVALIER, rue S. Jacques : l'Image S. Pierre, prés les Mathurins, E T SAMVEL THIBOVST, au Palais en la Gallerie des Prifonniers. M. DC \ XV I I. AVE PRIVILEGE DV R.</p>
<p>1567 COMITIS(Natalis), ラテン語版</p>	<p>1627 COMES(Natalis),フランス語版</p>

IV. 関連文献・・・20世紀以降に刊行された西洋神話図像学に関して、邦訳等のある主要文献に引用されたものを選んだ。ここからは、ヴァールブルク学派が、この図書について、1939年以降こだわりを持ち続けた歴史が理解できる。

1939 パノフスキー(E.)

1939, PANOFSKY(E.), *Studies in Iconology, Humanistic Themes in the Art of the Renaissance*, Oxford UP*; ペーパーバック版 1971 Icon*

邦訳

1971 パノフスキー(E.) 『イコノロジー研究』美術出版社、邦訳・永澤峻他*; 2000 ちくま学芸文庫*、脚注 269, 271a, 400, 558, 573

アルチアーティに並んでしばしば引用しているが、詳述はされていない。

1939 セズネック

1939 SEZNEC(J.), *La survivance des dieux antiques. Essai sur le role de la tradition mythologique dans l'humanisme et dans l'art de la Renaissance*. Thèse pour le Doctorat es Lettres présentée à l'Université de Paris. The Warburg Institute; 1940 Studies of the Warburg Institute, ed. by SAXL(F.), vol. XI

ソルボンヌ大学に提出した博士号取得論文。

英訳

1953 *The Survival of the Pagan Gods : the Mythological Tradition and its Place in Renaissance Humanism and Art* ; transl. by SESSIONS(B.F.), Pantheon Books, Coll. Bollingen Series 38*; 1972, Princeton UP, ペーパーバック版, p.229-234

邦訳

1977 セズネック (J.) 『神々は死なず・・・ルネサンス芸術における異教神』高田勇訳, 美術出版社*, p.242-245

コンティについての言及としては、上記にあるように、重要な仕事である。

1944 ゴンブリッチ

1944 GOMBRICH(E.H.), 《Poussin's Orion》, *BM*, LXXXIV, p. 37-38, 40-41*; 改定・再録 (1972) 1985, *Symbolic Images*, Coll. Studies in the Art of the Renaissance II, Phaidon, p.119-122, 226* ペーパーバック版

邦訳

1991 「プッサン《オリオン》の主題」『シンボリック・イメージ』平凡社、邦訳・遠山公一*, p.242-249, 428-429,

プッサン作《オリオンのいる風景》(メトロポリタン美術館蔵 <http://www.metmuseum.org/toah/works-of-art/24.45.1>) とコンティのテキストの関係について、秀抜な新知見を提案した論文。

1947 イエイツ

1947 YATES(F. A.), *The French Academies of the Sixteenth Century*, Warburg Institute Coll. Studies of the Warburg Institute, no.15, ; 復刻版 1968, Kraus

邦訳

1996 イェイツ (F.A.), 『十六世紀フランスのアカデミー』高田勇訳, ヴァールブルク・コレクション, 平凡社, 脚注 6章, 146; 7章, 5; 11章 20

1949 パノフスキー(D.)

1949 PANOFSKY(D.), 《Narcissus and Echo; Notes on the Poussin's Birth of Bacchus in the Fogg Museum of Art》, *AB*, 6, XXXI, p.112-120, note 22-23*

プッサン作《バッカスの誕生》(フォッグ美術館所蔵、)

http://www.nytimes.com/slideshow/2008/02/14/arts/0215-POUS_3.html

に描かれた、バッカスとニンフについて引用している。夫である、E・パノフスキーとの共作を思わせる好論である。

1967 ブラント

1967 BLUNT(A.), *The Paintings of Nicolas Poussin*, Phaidon, I, p.315- 317, 327, 347; 1995. Pallas Athene, foreword by KITSON(M.) and appreciation by SEVEL(B.) (ペーパーバック版)

プッサンの神話画研究の基本図書。1930年代に、ヴァールブルク学派で研究を始め、その後コートールド研究所所長となる。ゴンブリッチの同世代であるが、コンティ研究では、その成果を引き継いでいる。

1970 アレン

1970 ALLEN(D.C.), *Mysteriously Meant, The Rediscovery of Pagan Symbolism and Allegorical Interpretation in the Renaissance*, The John Hopkins Press, p.225-228

美術史側からではなく、寓意・哲学解釈からの引用。

1996 デンプシー

1996 DEMPSEY(C.), 《Mort en Arcadie : les derniers tableaux de Poussin》, *Nicolas Poussin 1594-1665 : actes du colloque*, Louvre, 1994, La Documentation française, Musée du Louvre*, I, p.521-539

パノフスキーの弟子の一人である著者の、ドラの上記論文(1949)への思いがにじみ出す好論である。

1996 マクタイ

1996 MCTIGHE(S.), *Nicolas Poussin's Landscape Allegories*, Cambridge UP*
ゴンブリッチの研究をたたき台にしており、多数の引用がある。

2010 望月

2010 望月典子 『ニコラ・プッサン・・・絵画的比喻を読む』慶応義塾大学出版会
*,p.36,172,372,388

☆執筆にあたって、栗田秀法、望月典子、宮島綾子各氏のご支援をいただいた。